

小平市教育委員会議事録（甲）

—— 10月定例会 ——

平成30年10月18日（木）

平成30年10月 教育委員会定例会（甲）

開催日時 平成30年10月18日（木） 午後2時00分～午後3時07分

開催場所 会議室

出席委員 古川正之 教育長
森井良子 教育長職務代理者
山田大輔 委員
高槻成紀 委員
三町章 委員

説明のための出席者 齊藤豊 教育部長
出町桜一郎 教育指導担当部長兼指導課長
川上吉晴 地域学習担当部長
余語聡 教育総務課長
坂本伸之 学務課長
荒木忍 教育施策推進担当課長
季高一成 地域学習支援課長
照井幸枝 中央公民館長
湯沢瑞彦 中央図書館長
飯島健一 教育総務課長補佐
松長功二 学務課長補佐
関口優一 学校給食センター所長
本橋義浩 指導課長補佐
中村和哉 指導主事
窪田隆徳 指導主事

書記 山本真由美 教育総務課長補佐、塚本真也 教育総務課主任
傍聴者 0名

午後2時00分 開会

（開会宣言）

○古川教育長

ただいまから教育委員会10月定例会を開会いたします。

（署名委員）

○古川教育長

はじめに、議事録署名委員の指名を行います。本日の議事録署名委員は高槻委員及び私、古川

でございます。

次に、非公開にて取り扱う議題を決定したいと存じます。

本日の議題のうち、事務局報告事項（５）及び議案第３１号から第３４号までは、人事案件または個人のプライバシーを含んだ内容でございますので、非公開で取り扱いたいと存じます。

お諮りいたします。

ただいま申し上げました議題について、非公開にて取り扱うことに賛成の方は、挙手願います。

－賛成者挙手－

○古川教育長

挙手全員でございますので、非公開と決定いたしました。

それでは、本日の議題に入ります。

（委員報告事項）

○古川教育長

はじめに、委員報告事項を行います。

（１）平成３０年度東京都市町村教育委員会連合会管外視察研修について、森井委員からご報告をお願いいたします。

○森井教育長職務代理者

平成３０年度東京都市町村教育委員会連合会管外視察研修につきまして、私からご報告いたします。

資料No.1をご覧ください。

研修は１０月１２日金曜日に行われ、江東区にございますパナソニックセンター東京とTOKYO GLOBAL GATEWAYを視察してまいりました。

小平市からは、古川教育長、山田委員、高槻委員、そして私、森井、随同行の山本教育総務課長補佐の５人で参加いたしました。

初めに視察いたしましたパナソニックセンター東京は、オリンピック・パラリンピックの学習と理数学習の二つの学習テーマについて子どもたちが体験学習できる施設です。

オリンピック・パラリンピックの学習については、スポーツや文化に関する展示とともに平和、相互理解など四つのテーマを手がかりに、子どもたちが主体的にオリンピックとパラリンピックについて学ぶことができる体験型の展示がなされており、実際に江東区の小学校５年生が学習している様子を見学することができました。

理数学習については、２階、３階フロアのリスーピアにて携帯情報端末を活用して３０個の展示を体験することで、楽しみながら理数の原理、法則などを学ぶことができ、また、映像ライブラリーの多様な映像コンテンツを用いて、知識を広げることができるようになっております。こ

ちらでも、訪れた生徒たちが興味を持ってさまざまな展示を体験している様子を見学いたしました。

午後に訪れましたTOKYO GLOBAL GATEWAYは、外国にいるようなリアルな空間の中で、児童・生徒が英語でのコミュニケーションに挑戦する体験型施設です。

英語学習に必要とされる実際の場面で英語を使うことで、意欲向上のきっかけづくりとなるよう、東京版英語村として今年の9月6日に開設されたもので、昨年度の教育委員会管外視察研修でも訪れておりますが、そのときは開設前で会場説明のみでしたが、今回は施設内を見学するとともに、実際に生徒たちが学んでいる様子を見学することができました。

施設内には、海外での日常生活をイメージしたアトラクションエリアとグループ学習を通してさまざまなテーマを、教材を用いて英語で学ぶアクティブイマージョンエリアがあり、子どもたちの英語レベルや発達の段階に応じてさまざまなプログラムが用意されています。アトラクションエリアでは、薬局やホテル、空港、レストランなどの日常生活が再現された空間の中で、グループごとに与えられた課題に取り組むプログラムが用意されています。

企業の協力により実際に使用されている設備や販売されている商品を設置するなど、子どもたちが楽しみながら、自ら英語を話してみたいくなる空間づくりがなされていました。

アクティブイマージョンエリアは、プログラミングやサイエンス、ビジネス、茶道などのテーマについて、それぞれの分野に強みを持つスペシャリストと呼ばれるイングリッシュスピーカーの指導により、英語で学ぶプログラミングが提供されます。子どもたち8人につき1人のエージェントと言われるイングリッシュスピーカーが1日付き添い、学習をサポートしてくれています。

実際に、当日プログラミングを終え、とても楽しそうにエージェントと挨拶を交わして帰っていく子どもたちの様子を見ることができました。エージェントやスペシャリストが子どものレベルに合わせて対応を変え、発話を引き出す工夫をしているという点がすばらしいと感じました。海外にいるかのような疑似空間や英語を話す必然性のあるシーンにおいて、子どもたちに英語でやりとりする楽しさを体験させることは大変有効であると感じました。

開設から1か月ほど経っておりますが、既に多くの子どもたちが訪れ学んでおり、申し込みや問い合わせも多数寄せられているとのことでした。

視察後の質疑において、多摩地区からは遠方にある施設のため、宿泊やコース時間の変更などについての質問がありましたが、開始時間の変更などを柔軟に対応していただくことは難しいようでした。

小平市での活用を考えた際の課題としては、やはり往復に時間がかかることと交通費等費用が多額だという点です。今後の活用については、引き続き近隣他市の活用状況などを考慮しながら調査研究をしていく必要があると思われました。

私からの報告は以上でございますが、参加された皆さんからももしご感想、ご意見がありましたらお話をいただきたいと思います。存じますが、いかがでしょうか。

○古川教育長

ありがとうございました。何かございますか。

以上で、委員報告事項を終了いたします。

(事務局報告事項)

○古川教育長

次に、事務局報告事項を行います。

(1) 平成29年度一般会計決算特別委員会の審査結果について、説明をお願いいたします。

○齊藤教育部長

事務局報告事項(1)平成29年度一般会計決算特別委員会の審査結果についてを報告いたします。資料はございません。

一般会計決算特別委員会は、去る10月9日から11日まで3日間開催され、教育部の決算審査につきましては、11日の午後5時35分から行われました。

教育部の審査終了後、午後8時20分から各会派の代表から総括質疑がございました。

一般行政につきましては市長が、教育行政につきましては、教育長が答弁いたしました。

総括質疑・討論の後、採決が行われ、賛成多数をもって、認定すべきものという採決結果でございました。

議決は、市議会12月定例会初日の本会議にて行われる予定でございます。

教育部の審査の内容につきましては、多岐にわたっておりますので、市議会の要録ができ上がりましたら、そちらをご覧いただきたいと存じます。

○古川教育長

次に、(2)平成30年度全国学力・学習状況調査における小平市立学校の結果概要について、説明をお願いいたします。

○出町教育指導担当部長

事務局報告事項(2)平成30年度全国学力・学習状況調査における小平市立学校の結果概要についてを報告いたします。資料No.2をご覧ください。

本調査の目的は、教育委員会といたしましては、市立小・中学校の学力水準を検証し、教育委員会の施策の改善・充実に生かすこと、また、学校といたしましては、個々の児童・生徒の学習状況を把握して指導に生かすとともに、学校全体として指導方法の検証・改善につなげることでございます。

原則として、特別支援学級に在籍している児童・生徒は調査の対象とはなっておりません。

はじめに、教科に関する調査の結果でございます。

1ページの(1)各教科別の平均正答率をご覧ください。グラフと表で示しております。

中学校理科を除く全ての実施教科において、全国の平均正答率を上回っております。また、特

に中学校は国語Aを除く全ての実施教科において、東京都の平均正答率を上回っております。

2 ページ (2) 各教科別正答数分布をご覧ください。

およそ全国及び東京都と同様の分布状況ですが、小学校、中学校ともに、国語、算数、数学のB問題では、全国及び東京都と比較して下位層が少ない、という傾向が見られました。

3 ページをご覧ください。(3) 評価の観点別の平均正答率でございますが、小学校につきましては、国語A、国語Bともに全ての観点で東京都の平均正答率を上回っております。

一方、算数Aの「数量や図形についての知識・理解」では、東京都の平均正答率と比較すると、2.0ポイント下回っております。資料には、このことに関連する問題と授業改善のポイントを掲載しております。

4 ページ下段の表をご覧ください。中学校につきましては、全ての実施教科において、多くの観点で東京都の平均正答率を上回っております。

国語Aの「話す・聞く能力」では、東京都の平均正答率と比較すると、0.1ポイント下回っております。資料には、このことに関連する問題と授業改善のポイントを掲載しております。

次に、質問紙調査の結果でございます。

7 ページの児童・生徒質問紙調査の結果をご覧ください。質問項目は、小学校が62、中学校が59ございますが、その中から抜粋して記載しております。各質問事項に対する肯定的な回答の割合について、上段に小学校、下段に中学校の結果を示しております。

(3) の家庭学習に関する項目では、小学校は東京都の平均値を上回っているものの、家庭における主体的、計画的な学習習慣の定着が課題と認識しております。

8 ページの学校質問紙調査の結果をご覧ください。質問項目は、小学校が84、中学校が81でございますが、その中から抜粋して記載しております。引き続き、東京都の平均値との比較でご説明いたします。

(1) の第3項目では、小学校、中学校ともに東京都の平均値を下回っております。今後、児童・生徒が学んだことを活用して課題解決する学習場面を積極的に設定するよう、学校に助言してまいります。

(2) の家庭学習の指導に関しては、小学校、中学校ともに東京都の平均値を下回っている項目がございます。児童・生徒が効果的に家庭学習を進められるようにするための児童・生徒への指導や保護者への啓発を行っていくことが課題でございます。

今後、本調査の結果をもとに、児童・生徒の学力向上を図るため、学校訪問や各研修会の機会を活用し、各学校の調査結果に基づいた課題も踏まえながら、授業改善に向けた指導・助言を行ってまいります。

○古川教育長

次に、(3) 小平市教育委員会後援名義等の使用承認について、説明をお願いいたします

○齊藤教育部長

事務局報告事項（3）小平市教育委員会後援名義等の使用承認についてを報告いたします。
資料No.3をご覧ください。

今回報告いたしますのは9件で、例年、または過去にも承認しているものでございます。

○古川教育長

次に、（4）事故報告Ⅰ（9月分）について、説明をお願いいたします。

○出町教育指導担当部長

事務局報告事項（4）事故報告Ⅰ（9月分）についてを報告いたします。

9月の事故報告Ⅰの交通事故、一般事故につきましては、資料No.4のとおりでございます。

今回ご報告する交通事故は、小学校管理下で1件でございます。

中段をご覧ください。

一般事故は小学校管理下で4件でございます。

今月の事故報告件数は昨年度同時期と比べ、交通事故は0件から1件へ増加し、一般事故は3件から4件へと増加をしております。

それでは、小学校の授業中の事故①と④について、ご説明をします。

まずは①、授業中の事故です。9月18日火曜日、午前9時20分ごろ、5年生女子児童は、運動会へ向けての表現の学習を行っておりました。校庭にて、5・6年生合同で波の表現を行っていたところ、隣の児童に接触し、右足の小指を痛めました。4時間目終了後に当該女子児童から担任に小指が痛いとの申し出があったため、保健室にて応急手当てをして、迎えに来た保護者とともに病院で受診をしました。診察の結果、右足小指の骨折と診断をされました。

学校では、当日の夕方の打ち合わせの際に全教員で事故の状況を共有し、安全管理の徹底を図ることとしました。

次に、小学校の授業中の事故④です。9月28日金曜日、午前11時55分ごろ、3年生女子児童は、体育館にて跳び箱の学習をしておりました。跳び箱の補助運動として馬跳びの練習で跳んだところ、自分自身の左肘と左足がぶつかり、バランスを崩したまま床に落下しました。当該女子児童は、左肘の痛みを訴えたため保健室にて様子を見ましたが、左肘を真っすぐに伸ばせない状況がございました。その後、養護教諭付き添いのもと病院にて受診をしましたが、もっと設備の整ったところでの受診を勧められたので、ほかの病院へ移動して受診をいたしました。診察の結果、左肘骨折と診断され、今後、手術が必要となりました。当該女子児童は10月1日に手術を行い、翌日に退院をいたしました。

学校では、体育の授業での安全管理を徹底するとともに、児童の発達の段階に合わせたきめ細かい指導を行うよう共通理解を図りました。

9月は運動会開催の学校が多く、表現運動の練習での事故がございました。安全管理を徹底するのはもちろんのことですが、児童・生徒の個々の発達の状況に合わせた指導の重要性について、今後も学校を指導してまいります。

○古川教育長

ありがとうございました。

ここまでの事務局報告事項につきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

○山田委員

事務局報告事項（２）、平成30年度全国学力・学習状況調査における小平市立学校の結果概要について、質問をさせていただきたいと思います。

7ページに児童・生徒質問紙調査、（３）家庭学習に関することの質問事項の⑨番で、「家で学校の授業の予習・復習をしていますか。」と、質問が出されているわけですが、予習・復習について、家庭で、家に帰って予習や復習をすることはなかなか難しいため、数値にもこうあらわれていると思います。特に予習というものを家で、1人でできるものなのかといったところにつきまして、小平市の教育では予習というものをどのように推進をしていらっしゃるのか、していないのか、まず一つ質問させていただきたいと思います。

○中村指導主事

予習・復習についてでございますが、復習が中心になっているというのが現状です。学校での学習内容を定着させるためにどのように家庭で事前学習するのが効果的なのかということは、今後我々も研究をして学校に伝えていきたいと考えております。

○山田委員

ありがとうございます。その中でも小学校では、62.6%、中学3年生は50.2%と、そういった意味では、予習も復習もしている子というのが多いというふうに捉えているところではございます。

また、家庭学習に関することですので、家でというふうになっておりますが、学校以外で、塾であるとかそういったところも数値にあらわれていると考えてもいいかと思っておりますが、なかなか予習というよりは今、おっしゃっていただいたように復習というものを重点的にやることで、さらにこの数値が上がっていったらいいと思いました。

○古川教育長

他によろしいでしょうか。

○三町委員

8ページ、3学校質問紙調査の（１）の③についてですが、内容的には「前年度に各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。」というところで数字が国も東京都も小平市も低いです。質問だけ読むと、総合的な学習の時間の

本来の狙いのような印象があるのですけれども、低いというのは総合的な学習の時間がそういう狙いに即した学習になっていないのか、あるいは、指導者がそういう意識で指導していないのか、余りにも少ないので、どういうふうに解釈すればいいのか、この解説だけではつかみ切れないので、総合的な学習の時間とかそういう絡みとの関連でどういうふうに受けとめていらっしゃるのでしょうか。また、それをどう指導しようとするのか教えてください。

○中村指導主事

ここにあらわれている数字としましては非常に低くなっておりませんが、この学校質問紙調査の数字は、「よく行った」と回答したもののみに絞っています。「どちらかといえば行った」というものを含めると、小学校では84.3%、中学校では100%という数字になっています。ただ、この項目は我々としても課題と捉えておりますので、あえて一番肯定的な回答の割合だけを示しております。

総合的な学習の時間の中で、課題解決の取組というのは、実際各学校で行っておりますが、新しい学習指導要領の措置に基づいて一層推進する必要があると考えております。

○三町委員

意味合いはわかりました。結構です。

○高槻委員

関連して、質問です。1ページで平均点が高かった、低かったと言っていますが、100点満点の平均点が1点、2点の違いというのは余りにしなくていいと思います。しかし、8ページ、(1)の④、中学校の全国が55.7%であるのに対して、小平市は37.5%というのはかなり違います。それから、(2)の⑥、中学校の全国が37.5%で、小平市が12.5%、⑦の中学校の全国が32.0%、小平市は12.5%、これも大きく違うので、その背景や事情をお聞きしたいと思います。

○中村指導主事

(1)の④につきましては、こちらも「どちらかといえば行った」というものを含めると、87.5%になります。「よく行った」と回答した割合のみで見れば、低くなっております。これがなぜ本市で低くなっているかということは、これから分析しなければいけないところです。

○高槻委員

いずれにしても基準は同じですか。

○中村指導主事

同じです。

新しい学習指導要領では、何ができるようになったかという視点での指導が重要だと言われています。できないことに目が行きがちなところがあるのかもしれませんが、できることを一つ一つプラスで声をかけていくということを今後、学校に助言していきたいと考えています。

続いて、⑥、⑦についても非常に低くなっております。これも「どちらかというところに行っている」を含めた肯定的な回答の割合では⑥は62.5%、⑦は87.5%になります。

これも先ほどの家庭学習の件とも重なりますが、今年度、家庭学習の充実についてを本市で課題意識を持って取り組んでいるところです。今年度末までに教員向けの「家庭学習の手引き」というものを作成します。このような視点で子どもたちに指導したり、家庭に啓発したりということをもとめた資料を配付して、より家庭学習の充実を図っていきたいと思っているところでございます。

○古川教育長

「どちらかといえば行っている」を入れると80%以上、それは都や国との比較ではどうでしょうか。

○中村指導主事

⑥に関しては、本市では62.5%、全国では90%近い数字です。ここはそれを含めても低いという状況です。⑦については、ほぼ全国平均並みで、東京都よりは少し高いです。

○古川教育長

⑥はどちらにしてもかなり低い、それは課題であると捉えているということですか。

○中村指導主事

はい、そうです。

○高槻委員

この設問自体が、「共通理解を図りましたか」であるにもかかわらず、学校が10あるうちのひとつぐらいしか「図った」と答えなかったというのは不可解です。一番大事なのは自主的に子どもに対して先生方が理解を図ったかどうかの実態であって、この数字の低さは、学校側の意識として意外感があります。

○三町委員

その関連で、確認したいのですが、学校質問紙調査というのは、教員対象ということではなくてあくまでも学校1校に対して、質問していると受けとめています。ということは、これを書くのは管理職かそれに近い人だと思います。管理職が指導、経営上も自信がないという自分に対する評価をしているというのか、「どちらかといえば行っている」という程度の評価しか管理職は

持っていないということなのか、管理職が堂々と「ここはわかるよ」というぐらいに上がっていないと意味がないと感じます。数字を上げるためによくするのではなくて、調査回答に対して「うちの学校はちゃんと行っている」と言えるようになれば、「行った」というのがずっと増えてくるのではないかと思います。正直なのか自信がないのか、実際そういう指導を検討していないのか、小平市の場合はそれが弱いというふうに私は感じました。管理職の研修頑張ってください。

○古川教育長

小学校の場合は、学年で宿題を統一しなさいとかそういう言い方をするのですけれども、小平市の中学校はどういう状況でしょうか。

○中村指導主事

教務主任会でも話題に上がりましたが、中学校になると教科ごとになるので、課題の与え方に関する共通理解の状況は、確かに小学校とは状況が異なると感じています。

各教科でどういう課題を与えるかは、統一するのは難しいと考えています。それよりも先ほど申し上げた「家庭学習の手引き」の中では、まず、学習の仕方、学習計画の立て方、また、家庭学習を効率的にするために学校でノートをどういう形でとれば家庭に持ち帰ったときに復習がしやすいのかなど、各教科で共通することについて、学校から集めた情報をもとに全ての学校で共通理解できるものを具体的に示す予定です。その結果、これらの項目の肯定的な回答の割合を上げていけるように努力してまいりたいと考えています。

○古川教育長

よろしいですか。

○森井教育長職務代理者

今までのお話を伺っていて、家庭学習に関しては児童・生徒も1年経っているので、成長しているということも含めて改善されている点もあるのでしょうか、それが数字にあらわれているというようなところはありますか。それとも、家庭学習の指導に関することに関しては、数字としてもあまり変わっていないということでしょうか。

○古川教育長

7ページの(3)⑧「家で、学校の宿題をしていますか。」では89%がしていると答えています。森井委員が言ったように、管理職が思っているのと子どもが思っているのではギャップがあるのではないのでしょうか。

○森井教育長職務代理者

それプラス昨年度から継続的に力を入れてくださっていて、数字が何かしら上向きなのか、やっても上向きな数字が得られないから、先ほどおっしゃったような「家庭学習の手引き」というようなことで手だてを打っていかないと変わらないのかということも含めて伺いたいと思います。

○中村指導主事

児童・生徒質問紙調査ですが、7ページの(3)の⑨番、予習・復習のところで比較をしますと、昨年度は「復習をしていますか。」という文言で調査をしているので、比較の対象にはならないかもしれませんが、その数字だけを見ますと、小学校では若干上がっていて、中学校ではほぼ同じぐらいの数値です。ただ、これが何か手だてを打ったから成果が上がり、数字が上がっていると切り切れるものではないと思っています。

学校の質問紙ですが、これについては、昨年度が「行った」「どちらかといえば行った」の両方を含めた割合で結果をまとめていたため、数値の比較では申し上げることができませんが、これらこの項目について大きく状況が改善されたとは捉えていません。今後、これらの項目について重点的に学校に助言を行ってまいります。

○森井教育長職務代理者

質問紙は、毎年多少変わっていくということで、なかなか比較や、どういったことで指導が結果に結びついているのかということというのは見つけにくいという感想を持ちました。それと先ほど山田委員もおっしゃったように予習と復習は別だと思えます。例えば中学校における英語などはある程度予習をしていかないと授業に入れないというのはわかるのですが、小学生の子どもに予習をしたかというよりはやはり厳しいと思えますし、質問の中で復習だけということで限定すれば、小学生も中学生もやっていると答えると思えます。質問紙に関して、こちらから言えないのかもしれませんが毎年変わることで、比較しながら研究してさらによいものにしていくというには無理があるというような感想も持ちました。

○古川教育長

あとはいかがでしょうか。

○山田委員

事務局報告事項(4)事故報告Iの9月分につきまして、ご意見を述べさせていただきたいと思えます。毎年、運動会シーズンになりますと、ほかの月と比べますと多少体育の授業での事故報告が上がってまいりますけれども、こういった組体操など子どもたちがチャレンジをして前向きな事故、変な言い方ですがございますけれども、そのように捉えているところでございます。

こういった組体操などで重大な事故が起こってしまう前にそのもの自体をなくす、そういった全国的に風潮がございましたけれども、そうではなく運動神経がいい子、そうでない子、様々で

ございますけれども、最終的に運動会という年間事業の一つに取り組んで、子どもたちが一生懸命に取り組んだ達成感を得られるような、そういった年間事業の一つに今後ともしっかりとやるようにお願い申し上げたいと思います。意見でございました。

○古川教育長

学校への指導などで何かありますか。

○出町教育指導担当部長

おっしゃったとおり、安全に十分配慮してというようなことが大事とっております。組体操につきましても、一定の段差制限は実施しているところでございますし、その段数を守ればいいのかという観点ではなくて、高さを競うというようなことではなく、横の広がりだとか子どもたち同士の学び合いだとか、そういうところをしっかりと見ながら指導していくようにと学校に伝えているところでございます。

それから、運動の体験は昔に比べると減っていて、教師がまさかそこでと思うようなところで事故が起きたりしておりますので、お子さんの状況というのをよく把握したうえで、個別の指導をしていかななくては事故は防げないと思っております。

○三町委員

事故報告に関連して、これに関してもキーワードが組体操になっているので、組体操で今年も3件事故が発生したということで、否定的な意味ではなく、組体操の練習だからこういう事故が起こっているのか、あるいは馬跳びだとかそういう競技でも起こるレベルのものなのか、そういった判断で見えていかないといけないと思い、下の結果を見ました。たまたま組体操の練習で起こっているレベルだと思いました。ほかのところでも起こる、組体操の危険性の中で発生しているものではないように私は印象を持ちました。

○出町教育指導担当部長

おっしゃるとおりでございまして、たまたま組体操の練習の中の動きで起きている事故というようなことでございます。ですので、これが通常の団体競技だとか普通の体育の授業とか、そういうところでも十分あり得ると私どもは思っております。

○三町委員

組体操そのもの、演技そのもので大きな問題があるということではないということで、わかりました。できるならば続けてほしいという思いがありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○森井教育長職務代理者

この秋に行われた小学校の中で、組体操を実施した学校は何校ありましたか。

○中村指導主事

秋に実施した学校17校の全ての学校が実施しております。

○森井教育長職務代理者

私も全部見せていただいたわけではないのですが、それぞれの小学校が高さではなく整列の美しさを見せるなどの工夫をしていました、また、テーマを決めて人類の進化の様子を組体操に組み入れたりとか、それぞれの小学校でとても大変感動できる内容の組体操が多かったという印象を持ちました。危険のないよう教員の方たちもちゃんと指導してくださっていると思います。練習期間でのけがということは十分に考えられることではありますけれども、せっかく子どもたちも、保護者の方も、地域の方も楽しみにしている競技の一つかと思いますので、小平市らしい形で続けていただけるとありがたいという感想を持ちました。

○古川教育長

よろしいですか。

以上で、事務局報告事項を終了いたします。

以上で、冒頭に非公開と決定したものを除く議題は終了いたしました。これ以降の議事は非公開にて取り扱いますので、関係者以外の方は、ご退席願います。

ここで休憩したいと存じます。3時まで休憩します。

午後2時43分 休憩